自治体名：京都府（木津川市）

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

木津川市城山台地区は、人口約１万人を抱える地区であるものの、地域の公共交通シフトが進まず、路線バスの廃線提案を受けている。当該地区が将来にわたって住み続けられる街となるよう、当該地域での地域交通再構築モデル確立／自動運転社会実装の横展開に繋げることを目的とする。

**【事業内容】**

木津駅～城山台の１周約4.7kmルートにおける運行ルート具体化（運行時間帯・ダイヤ等含む）、事業性・社会受容性検証および評価、リスクアセスメントを実施。

**【検証項目・検証方法】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | L4社会実装ルート・ダイヤ・発着地等の方針策定 | 住民アンケートおよび事業性検証を踏まえ策定 |
| 社会実装に向けた事業性検証 | 住民アンケートを踏まえ収支計画案を更新 |
| 目標乗車率が達成されるか（利用人数および利用者の属性（来訪者/従業員等）・頻度・時間帯別） | 住民アンケートを踏まえ机上試算 |
| 遠隔オペレーター業務や保安員業務に地域人材が活用できるか | （今年度は、地域におけるビジネスモデル案議論やアンケートを通じた運賃等の収入面を優先的に検討。地域人材活用・コスト低減効果については次年度以降の実証も含めて継続検討） |
| 技術面 | リスクアセス走行環境調査に対する対策案の提示 | リスクアセスメントを通じ立案 |
| 社会受容性面 | 自動運転の導入目的が認知されているか | 住民アンケートを踏まえ検証 |
| 利用者(地域住民／事業者等)が、便利である/生活が豊かになると感じられるか | 住民アンケートを踏まえ検証 |

**【検証・分析結果】**　（※前章【検証項目・検証方法】と連動した報告内容を記載ください）

■経営面

住民アンケートをもとに検証。

・ルート：想定運行ルートのうち約54％が自動運転バスの利用意向あり（想定走行エリア内に居住する住民は84％が利用意向あり）。

・ダイヤ：アンケート上は、どの時間帯においても一定程度の利用希望者がおり、約9割が30分に1本の運行間隔を希望。今後、実証走行を通じ、自動運転の運用コストと利便性がバランスするダイヤを検証し社会実装計画に反映を行う。

1台当たりの想定年間収支に基づき検証した結果、自動運転EVバスの年間運行コストに対し、運賃収入及び国からの補助を考慮しても収支不足（約4,100万円／年）が見込まれることにより、補助金受給が不可欠であること、また運賃以外の収入源確保等による事業性向上が必須であることが明らかになった。加えて、広域連携を通じた遠隔監視等人件費の低減により、持続可能性を高めていく。

事業計画案①（成り行き／イニシャル費用補助金あり）

テーブル

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。

事業計画案②（①＋広域連携効果取り込み）



■技術面

2025年度走行に向けたL4検討エリアに関しリスクアセスメントを実施。検出されたリスクへの対策実施の前提で、自動運転可能との結果となった。

・走行ルートの一部で、剪定対策が必要であり、実証時期に合わせた刈込や枝打ちを調整する必要あり。  
・走行ルート上の横断歩道や交差点 、城山台中央交差点 、走行ルート周辺商業施設においては、注意喚起の看板の設置や状況に応じて手動走行対応・介入が求められる。  
・走行方法について事前シミュレーションを行い、所轄警察署や関係区への事前相談を実施し、必要に応じて安全に運行できるように乗降バス停を選定することが求められる。

・一部通信環境が悪いエリアがあるため、遠隔監視の試行等は検証が必要であり、長期的には基地局の設置を検討する必要がある。

テーブル

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。

■社会受容性面

住民アンケート結果からは、約33％が週に一度以上、約64％が月に一度以上の頻度で利用を希望するとの結果となった。

移動以外の効果としては、ドライバー不足の解消、交通事故の減少、自動車利用減による渋滞緩和等の効果が期待されており、回答者の9割が何らかの移動以外の効果についても期待をしている。

また、自動運転バスの走行によって、「移動に不自由を抱える人が安心して外出できるようになる」、「先進的な取り組みとして市民の誇りに繋がる」と考えている方も約75％と高い結果となった。

今後、実証走行を通じた認知度向上や自動運転バスのメリットに関する理解の促進等を行い、利用者や歩行者、一般車両の運転者も含めた社会受容性を醸成する。また、アンケート等を通じて、社会実装に向けた自動運転バスに対する期待や不安などの社会受容性の検証を図る。